

高瀬神社 社報

越中一宮



東日本大震災復興祈願祭

本吉太々法印神樂奉納

第35号

平成 24 年 9 月 13 日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>



暑い日が続いた今夏、熱中症に注意するよう天気予報で呼びかけていました。また、夕立やゲリラ豪雨にも注意報や警報を出して注意するよう促していました。段々と詳細な気象情報が放送されるようになってきたことは誠にありがたいことです。しかし、このような情報が親切に伝達されればされるほど慣れが生じ、耳に入らない、目に留まらないという傾向があるようです。これが「現代人」という人たちなのかと思ふときがあります。

時々、国会中継を見ます。政治家の皆さんは国家・国民のためと努力されているのでしょうが私の目には「我が政党」「我が政権」のために頑張っているように写ります。人の良し悪しを判断するとき「あの人は私の強い人だ」とか「我を張る人だ」とか「我を通す人だ」ということがあります。あまり良い意味には使われないようですが、「我」とは何を考えてみたところ、簡単にいうと

宮司 藤井秀弘

「自分本位」のことであろうと思います。御神前でお清めする際に奏上する「祝詞」の中に「：諸々の禍事罪穢有らむをば：」という行があります。「禍事」とは「縁起の悪いこと・わざわい・凶事」などという意味です。先代宮司は「真・誠・実(まこと)」の中に「我(が)」が入って「禍事(まがごと)」になると言っておりました。嘘をつかない、偽り飾らない情、誠意、真実等々、人に対して親切にして欺かないこと、特に神様に向かう姿勢として一番大切なことです。

明治天皇 御製「神祇」

目に見えぬ

神にむかひてはぢざるは

人の心の

まことなりけり

とあります。神様はもちろんです、人に対しても「我」の入らない姿が尊いと思います。

我々の生活の中に「我」が入り過ぎますと、協同とか絆というところが消え去り、殺伐とした世間となつて、国家の繁栄とか国民の

幸せとかは無くなるのではないかと思うのです。

幸せというのは人によって感じ方が異なりますが、「幸せな社会」とはどのようなことなのでしょう。このことを一人一人が考えることが大切です。犯罪や交通事故が無い安全な社会、子供やお年寄りが安心して暮らせる社会など様々な幸せな社会がありますが、その実現に向けては「我」の使い方を工夫し、考えてみるものが大切なのではないかと思います。

わが国の政党は、いずれも民主主義を大きく掲げています。多くの人々が暮らす社会において自分中心の自由な生活を優先させることのみを民主主義に求めるのではなく、場合によっては自己を抑制し、他を優先させることも民主主義の平等という理念につながるのではないのでしょうか。「我」を主張することも時と場合によってであり、そのバランスが幸せな社会を実現させることになると思ふのです。

「禍事の根元は「我」にあり」。自分の在り方を謙虚に見つめなおして、「まこと」の道(＝嘘偽りの無い生活)の実践に邁進したいものです。

「全国一の宮めぐり」をしてみませんか?

「一の宮」は全国に約100社あります。平安時代、各地域で古くから崇敬を集め、神位も高く、由緒正しき神社が「一の宮」としてさだめられました。越中国一の宮は高瀬神社であります。

「御朱印」はこのような神社を参拝し、各神社にお祀りされている大神様の御神徳をいただくためのものです。時間をかけて自分流に全国の「一の宮」を巡ってみてはいかがでしょうか。きっと大神様から尊い御力をいただけることでしょう。



- 御朱印帳(大) 三〇〇〇円
- 御朱印帳(小) 一〇〇〇円
- ガイドブック 一〇〇〇円
- 新ガイドブック 一〇〇〇円

※「諸国の宮一覽圖」を差し上げておられます。ご希望の方は社務所までお申し出下さい。

祭事暦

夏越の大祓

知らず知らずのうちに犯した罪穢を半年に一度祓い落として元の清らかな心身に戻り、続く半年も健全に過ごせるようにと願う「夏越の大祓」が、六月三十日午後三時より斎行されました。

拜殿にて「大祓詞」が奏上され、各人が「人形」に罪穢を移しました。続いて人形の納められた「茅舟」を先頭に、宮司をはじめ祭員・参列者約百五十名が、向拝に設置された「茅の輪」をくぐり、残りの半年を清々しく過ごせるよう祈念しました。



七夕祭

八月七日午後三時より、「第四回七夕祭」が斎行されました。祭典では祝詞奏上に続き、地

元高瀬保育園や山野保育園の児童をはじめ、多くの参拝者が祈願した、たくさん短冊が付いた七夕飾りが祓い清められ、書き記した願いが叶うよう、御神前にお願いをいたしました。当日は夏休みという事もあり、近隣の園児・児童をはじめ、多くの参列者で賑わいました。



平成二十五年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願い奉納するものです。

- 一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。
- 一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。
- 一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。
- 一、献灯初穂料は、一基につき 金壱萬円御志納願います。
- 一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社

南砺市 (株)高瀬
高瀬産業株式会社

二、個人

高瀬 高瀬太郎
高瀬 太郎



社のご報告

「第十三回人形感謝祭」
「第十二回人形展」開催

古くなった「日本人形」や「ぬいぐるみ」に感謝の誠心を捧げる「人形感謝祭」が去る七月十五日斎行され、約三〇〇〇体が境内の特設納所へ持ち寄られました。

また、「人形感謝祭」にあわせ、七月十四日より十六日まで「第十二回人形展」第一期―人形といけばな―の出逢うとき―が開催され、木彫や和紙・ガラス作家十五名の創作人形一〇〇点余りの人形が展示され、いけばな草

月流富山県支部「秀抱会」により会場が装飾され、期間中は大勢の人で賑わいました。

▽監修 梅崎 親美 (秀抱)



飛騨山静恵 (富山市)



松本 昌子 (南砺市)



福島まゆみ (金沢市)



川原 るみ (南砺市)



荒井 恒雄 (南砺市)



笹波 美恵 (高岡市)



牛島 辰馬 (南砺市)



安達 陽子 (砺波市)



長谷川創一 (砺波市)



野村 幸子 (南砺市)



中林 雅代 (富山市)



宮長 由紀 (射水市)



岸本 耕平 (射水市)



嶋田 数男 (砺波市)



海道 貴也



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎秀鈴

奉納剣道大会の 思い出

禰宜 齊藤直己

昭和三十八年、第一回の越中一宮高瀬神社奉納剣道大会が開催されました。そして、本年第五十回の大会を迎えることになり、大変に感慨深いものを感じます。

私は昭和三十六年に庄川中学校に入学し、卓球部に入学しましたが、事情があり同期入部の高島外志雄君と一緒に退部するため、顧問の田上弘先生を職員室に訪ねたところ、田上先生は二つ隣の机に居られた齊藤孝志先生に「あそこの二人が卓球部を辞め、どうしても剣道部に入りたいというが、先生引き取ってもらえるか？」と、こちらの意思に関係なく話され、齊藤先生もこちらを見て、「わかったよ」と返事をして居られた。その時から、私の剣道との関わりが始まりました。私は、実際には中学・高校の六年間弱しかしていませんが、子ども二人が剣道を致しましたので、生涯の関わりが出来たことでし

四月から入部の一年生は、もう竹刀を持って練習を始めていました。私が、私ら二人は最初、鏡の前で腰に手をやり先輩の指導で、前・後・右・左と足さばきだけをやらされていました。その一年生の時の夏休みに、富山県警機動隊の方々が中学校で剣道合宿をされており、その練習が物凄く激しかったことが、いまだに記憶に残っております。いつか三年生になり第一回の「高瀬大会」が始まりました。

その時は、中学男子の団体戦と個人戦のみでした。私は庄川中学校の大将をして居りました



ので、社殿での奉告祭の後、拜殿で選手宣誓をし、同学年の藤森洋子さんと紋付袴に白襷の出で立ちで、日本剣道の形を小太刀三本まで奉納をさせて頂きました。試合の方は団体戦では、庄川中学校が優勝いたしました。個人戦は庄川中学校の沼助次君が優勝、高島外志雄君が次勝し、それぞれ赤白の木刀を手にしました。私は、三位になった吉江中学校の中山君に負けてしまいました。本当に悔しかったことが思い出されます。

その後、長男直宣、長女妃呂子もこの「高瀬大会」に出場し、親の私より良い成績を残してくれましたことは、誠にうれしい限りであります。

昭和五十六年三月に神職として高瀬神社に奉職するようになり、この「高瀬大会」の世話方として関わらせて頂き、本年の第五十回大会を迎えられますことは喜びに堪えません。

これからも、高瀬神社はもろん砺波剣友会の方々を始め皆さんの協力で、六十回、七十回、めでたく百回と回を重ね続けていってほしいと念願しております。



参拜日誌抄

(平成二十四年六月〜八月・敬称略)

〔六月〕

- 一日 (株)スリー・ティー 六名
- 八日 氏子清掃奉仕(村総出) 越路ガーデン 九名
(境内剪定作業奉納)
- 九日 太美山小学校辰巳会 十四名
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕) いきいき古刹探訪サークル 四十三名
- 二十一日 小牧神明社氏子総代会 十五名
- 二十三日 高瀬遺跡菖蒲まつり実行委員会 十五名
- 二十六日 本吉太々法印神楽保存会六名 (御神楽奉納)
- 二十九日 タカハタ工業(株) 六名
タカハタ工業(株)高和会
タカハタ工業(株)造作部会
タカハタ工業(株)新潟高和会 一〇〇名

〔七月〕

- 三十日 高瀬稻荷講 商売繁盛祈願祭
- 一日 中越パツケージ(株)富山工場 中越パツケージ(株)砺波工場 中越パツケージ(株)福光工場 中越パツケージ(株)伏木事業所 川田工業(株) 川田工業(株)富山工場 川田工業(株)北陸事業部建築部 川田工業(株)北陸事業部土木部 建設業労働災害防止協会 富山県支部 六十名 砺波労働基準監督署 (社)富山県労働基準協会 六十名 林業木材製造業 砺波支部 労働災害防止協会 六十名
- 六日 (株)環境総合テクノス富山支店 四十名
- 七日 松本建設(株) 二十六名
- 八日 砺波高等学校野球部 六十名
- 十一日 福野高等学校野球部 四十五名

〔八月〕

- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕) 二十三日 富山県神社総代会砺波支部 「総会」 「国家隆昌祈願祭」 二十五日 富山県神社庁総会 六十名
- 二十五日 富山県神社庁総会 六十名
- 二十八日 高瀬グリーン会 二十七名
- 二十九日 富山県神社総代会砺波支部 「総会」 「国家隆昌祈願祭」 二十五日 富山県神社庁総会 六十名

団体参拝のご案内

事業所の安全祈願・創立記念日等の各種祈願を随時受け付けております。
不明な点は社務所までおたずね下さい。
(初穂料) 一〇、〇〇〇円



今年で第九回目となるNPO法人PEACEとなみ野(神下正弘会長)主催の「第九回となみ野100km徒歩の旅」が八月二十一日から二十五日まで、四泊五日の行程で実施され、二十四日に参加者(小学生)と係の方を含めた総勢100名が当社に立ち寄られました。

到着後、先ず参拝し、その後境内におきまして昼食休憩をしました。

出発に際しては、権宮司が「大神様のご加護のもと無事完歩してください」と挨拶し、田中幹夫南砺市長も激励に訪れ、参加者は元気にゴールを目指して出発しました。



高瀬神社のプライダルがいよいよ新しく始動!

新聞等でご存知の通り、平成25年に向け高瀬神社のプライダルが大きく変わります。

高瀬神社で結婚式を挙げられた事を誇りに思っ頂ける場所であり続けることは言うまでもないことですが、時代の変化によるニーズの多様化に、より柔軟により迅速に対応し続ける為に、只今動き出しました。

昨今の婚礼事情の変化の中、高瀬神社の婚礼事業も大きな過渡期を迎えておりました。何度も協議を繰り返し、これからの高瀬神社のあり方、地域の中で神社が貢献できる事、そして結婚式、披露宴のあり方を皆で考えた末、大きな決断となる答えを導き出しました。

どれだけ時が流れても揺るがない事と、時の流れと共に変化していく事の融合の場所が神社ではないでしょうか。神前でとり行なわれる結婚式はまさに、何一つ変らず揺るぎの無い儀式であります。

結婚と一言で言いますが、準備から挙式当日、披露宴や食事会、2次会と中身は多岐にわたります。その中で提案できる事も実に多様です。それは、目に見える物はもちろんですが、お二人の結婚に対する意識そのものであったりします。

新しく始動するプライダルは、何よりこの意識を大切にしています。「心」に重きを置き、そこから結婚式を作り上げていきます。高瀬神社でお二人の新たな人生が始まり、その後の人生を幸せに過ごしていく未来を作り上げる結婚式。どこにも真似のできないオンリーワンの結婚式場を目指しています。

どこよりも熱い情熱と強い信念と、高瀬の大神様のご神徳を頂き、この事業の夢が大きく花開き、来年の秋には皆様にもその姿をご覧頂ける事でしょう。

どうぞご期待下さい。

御案内

七五三詣 数え年

本年は次の通りです。

○七歳(女子) 平成十八年生

○五歳(男子) 平成二十年生

○三歳(男女) 平成二十二年生

※十月一日より十一月末日まで、毎日午前九時より午後四時三十分まで随時受け付けております。

元服祝 (男子) 数え年

○十五歳(平成十年生)

髪上祝 (女子) 数え年

○十三歳(平成十二年生)

平成三十五年厄年

明年は次の通りです。

(男性) 二十五歳

前厄(平成二年生)

本厄(昭和六十四年生・平成元年生)

(女性) 四十二歳

前厄(昭和四十八年生)

本厄(昭和四十七年生)

後厄(昭和四十六年生)

十九歳

前厄(平成八年生)

本厄(平成七年生)

後厄(平成六年生)

三十三歳

前厄(昭和五十七年生)

本厄(昭和五十六年生)

後厄(昭和五十五年生)

三十七歳

前厄(昭和五十三年生)

本厄(昭和五十二年生)

後厄(昭和五十一年生)

祭典・結婚式等で御奉仕できない時間帯もありますので、不明な点は社務所までおたずね下さい。尚、十一月二十三日は新嘗祭斎行のため午後一時より受付いたしません。

第三十九回献茶式

十月二十一日(日)午前十時斎行

茶道裏千家ご奉仕

(お茶席・二席)

午前九時～午後二時三十分

(主催) 高瀬神社献茶奉賛会

(茶券) 一枚二千元(短冊付)

編集後記

本年は四年に一度の平和の祭典であるオリンピックが開催され、連日、日本選手団の活躍が報道されており、国内が大いに沸きあがっております。

そのような中、某国の選手が領土問題を掲げ、オリンピックの精神に著しく反する行為を行いました。日本も東京都などが開催地に立候補しておりますが、主権国家として品格ある美しい五輪の実現に向けて誘致してもらいたいものです。

〔表紙写真〕本吉太々法印神楽

東日本大震災復興祈願祭

本吉太々法印神楽奉納

六月二十六日午後五時三十分より、「被災地域の〆鎮守の杜」復興支援の一環として、北陸神道青年協議会（松本昌篤会長）が主催となり「東日本大震災復興祈願祭」「本吉太々法印神楽奉納」が斎行されました。

本行事は、震災で数多くの鎮守の杜が被害に遭い、氏子区域の家屋と共に社殿の跡形さえ失われました。それは有形のもののみならず、古くから伝わる伝統神事の存続も危ぶまれております。岩手県陸前高田市・宮城県気仙沼市の本吉地方に伝わる「本吉太々法印神楽」の奉納を通じて復興支援活動を行うべく、県内では魚津神社と当神社を会場に開催されました。

当日は約百七十名の参列があり、宮司以下神職の奉仕による「復興祈願祭」に続き、「本吉太々法印神楽保存会」会員六名により「西の宮」「初矢」「日本武

の三演目が奉納され、参列者は迫真の舞に見入っております。

ご参列いただきました皆様からは奉拝参列料としてお一人につき千円をお預かりし、さらに当日も多くの義捐金をお寄せ戴き、当県では合計四八七、〇九〇円となりました。皆様の温かい心のこもったその金額は、七月十九日、松本北陸神道青年協議会会長より同保存会へ手渡されました。



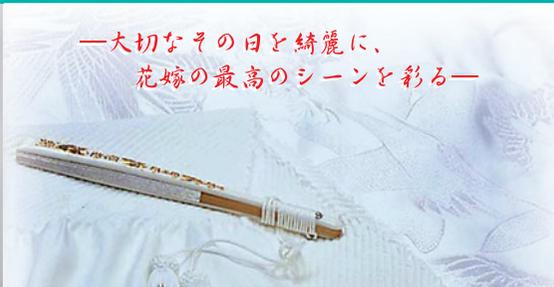
尚、同神楽はこれまでは現地でのみ奉納上演されてきたもので、今回が初めて氏子崇敬者区域外での奉納となりました。

また当日は、富山県神道青年会が、このたびの企画が富山県から遙か彼の地へと支援の後押しとなればとの思いから「追風」と記した浅黄色の短冊を麻緒で取り付けた「うちわ」をお配りしました。

当神社は、震災を風化させない一助となるよう、これからも、さまざまな形での復興支援を行う所存であります。

NOVIA de SALON みに

—大切なその日と綺麗に、
花嫁の最高のシーンを彩る—



TEL.0763-82-0423 富山県南砺市北川1852 <http://www.salon-mitani.com/> 全国美容技術選手権大会花嫁着付部門入賞(平成19年開催)

発行日 平成二十四年九月十三日

発行所

越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0102 富山県南砺市高瀬三九

TEL(0763)82-0932 FAX(0763)82-1330

編集人 浦

泰 宏

印刷所 牧印刷株式会社